帳票D

事業所名　ニチイケアセンターいわき内郷

作成日：2025　年　3 月　24 日

作成者：松本　郁美

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	グループホームとして、近隣や地域の人々との関わりと交流が出来ていないので災害時職員の不足から地域の協力が欠かせなくなるので、早急に関係作りをしていかなければならない。	近隣や地域の人々との関わりと交流ができ、災害時の協力体制を築くことが出来る。	・近くのグループホーム・ご家族様へ声かけをし、運営推進会議への参加を募る。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

帳票C

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター　いわき内郷　　作成者：松本郁美

作成日：2025年　12月　26日　　運営推進会議における評価実施日：2026年　3月　26日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	理念を事務所内に掲示し、毎日朝礼・夕礼・業務ミーティングでスタッフと管理者で作った事業所理念を唱和し共有している。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	B	散歩や庭の草刈り等で近隣の方と交流が図れる機会を作り、地域との繋がりが途絶え無い様に努めている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	運営推進会議を開催し、よりサービスが向上に繋げるよう第三者評価（外部評価）を運営推進会議においてサービス評価を実施する。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	利用者の受け入れの相談や居室の空き状況などの情報交換をしている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体的拘束適正化検討委員会を発足し、月に一回身体拘束適正会議を行い、全スタッフに意見交換を行い、3か月毎に一度グループワーク研修を実施。定期的な研修や勉強会を開催し、適切なケアに日々取り組んでいる。	B	・マニュアルを使用して事業所内で職員研修を実施している。身体拘束をしないケアの実践や言葉かけなどの課題に対し、研修や個別指導を活用し、継続して身体拘束をしないケアの徹底、適切なケアに取り組んでいる。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	B	年に1回高齢者虐待防止委員会を発足し、高齢者虐待防止会議を行い全スタッフに意見交換を実施。毎月の身体拘束適正会議や虐待防止を年間研修でも取り入れ、スピーチロック撤廃に向け、管理者を中心に全スタッフ間で指摘し合える環境作りを行っている。	B	・高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、研修や個別指導・アンケートを活用し、継続して虐待防止・スピーチロック撤廃に向けて取り組んでいる。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	年間研修で権利擁護について学ぶ機会を持っている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	契約締結時には、十分に理解・納得していただけるように説明し、了承を得た上で契約を締結している。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	年に一度、顧客満足度調査を行いご家族様からご意見や要望を頂き、運営に反映させている。その他玄関にご意見箱を設置している。また、電話や家族様来訪時入居者様とコミュニケーションを取り、意見や要望を聞き反映させている。	B	・面会時や電話連絡時に家族からの意見や要望は、時間をとって聞くように努めている。出された意見は、職員会議で話し合い、ケアの改善や運営に活かしている。法人支社では、毎年、家族に対して顧客満足度調査を実施し、各事業所で調査結果を運営に活かす取り組みを行っている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	会議や日常の業務内で職員一人ひとりの意見や考え、提案を話しやすい環境作りを行い運営に反映させている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	何でも話し合える環境を作り、良好な職場環境を整備している。	B	・日々の朝礼・夕礼の時間や会議を利用して、聞く時間として他愛もない会話や意見・考えを言い合える環境作りを実施している。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	毎月、職員研修を実施し、職員がスキルアップ出来るよう努めている。内部・外部の研修等の案内を実施し、参加希望者へは、シフトの調整を行いスキルアップや資格取得が出来る様に努めている。	B	・内部外部の研修希望があり、外部研修等参加出来るようにシフトの調整を行い、希望者がスキルアップや資格取得が出来るように努めている。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	グループホーム連絡協議会を通して同業者と交流している。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	本人の気持ちや想いに耳を傾け、年間行事や家事を一緒にする事で、共に協力する関係を築いている。		
15	馴染みの人や場所との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	感染症予防対策をしっかり行いながら、少人数での短時間の居室での面会を実施する事で馴染みの関係が途切れないように努めている。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター　いわき内郷　　作成者：松本郁美

作成日：2025年　12月　26日　　運営推進会議における評価実施日：2026年　3月　26日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	日常の会話や言動、担当者会議の中から本人の思いや希望、意向を汲み取り、気づきを重視して把握出来るよう努めている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	心身の状態変化に合わせアセスメント・担当者会議を行い介護計画書の変更を実施、本人が抱えている問題・ご家族様の要望・スタッフの提案を反映し、現状に即した無理のない介護計画書を作成している。	B	・介護計画書は、家族や本人の希望を確認のうえ、アセスメントを行い計画作成担当者が原案を作成し、職員で話し合って決定している。心身の状態変化や本人が抱えている問題・ご家族様の要望・スタッフの提案を反映し、現状に即した介護計画書を見直し随時変更している。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	介護計画に沿った介護記録を記入している。普段と違った言動や体調は十分に情報を共有し、随時対応を話し合い実践し、介護計画の見直しに活かしている。	B	・介護計画に沿った介護記録を記入している。日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫、普段と違ったことは職員間で十分に情報を共有し、随時対応を話し合い実践し、介護計画の見直しに活かしている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	本人、家族の状況に応じて、通院等の必要な支援を実施し、どのようなことを望んでいるのか、その都度、状態や状況に応じたサービスを提供できるように努めている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	家族・親戚・友人等の協力を得ながら面会や外出を通じてご本人様の心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう務めた。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B	月2回、協力医療機関の往診があるが、家族が対応できる際は情報提供の協力を図り、かかりつけ医での受診を支援している。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院時は定期的にご家族・医療機関と連携し状況確認や洗濯物支援を行っている。家族、主治医と話し合いながら、事業所での対応が可能な段階で早期に退院できるように努めている。	B	・入院時は定期的にご家族・医療機関と連携し状況確認や洗濯物支援を実施している。家族や主治医と話し合いをしながら、事業所での対応が可能な段階で早期に退院できるように支援している。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	契約時に、重度化した場合における指針を説明し、本事業所が出来ることへの理解をして頂けるよう努めている。ご家族・本人の意向でターミナルケアや看取りを希望される場合には、ご家族・医療との連携を図り支援している。またスタッフは終末ケアや看取りに関しての研修を取り入れ実践にも繋げている。	B	・入居契約時に、重度化した場合や終末期におけるケア対応の指針を説明し、本事業所で対応可能な内容について理解を得ている。また、重度化した際には、利用者・家族、医師、職員等が話し合い、方針を共有しながら、安心して納得した最期が迎えられるよう支援している。終末期ケアや看取りはスタッフへの負担が大きい為、研修を取り入れ実践に繋げるよう努めている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	緊急時対応マニュアルを使用しての研修や、今までの事例を話し合い、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	緊急避難時に対応できるよう、業務継続計画(BCP)を活用し、毎月何かしらの避難訓練を行っている。また、近隣との協力体制が整うまでには至っていない。災害時に備え、食料・備品を備蓄し、定期的に消費期限の確認や入れ替えを行っている。	B	・緊急避難時に対応できるよう、業務継続計画(BCP)を活用し、毎月火災や地震、水害などを想定した自主防災訓練を実施している。近隣や地域の人々との関わりと交流が少しずつ出来ているが、災害時職員の不足から地域の協力が欠かせず早急に関係作りに努めていく予定でいる。また、非常時用備蓄品の消費期限を定期的に確認・入れ替えを実施している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	一人ひとりに寄り添うことで人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。特に失禁時はご本人様だけではなく周りに配慮した声かけの工夫している。	B	・一人ひとりを尊重し、日々丁寧な声掛けをしており、特に排泄の失敗時には、居室やトイレに誘導しプライドを損ねないよう配慮している。個人情報の取り扱いに関しては、施錠付ロッカーでの管理がなされ、責任ある取り扱いを徹底している。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	ホーム全体での一日の流れの中で、本人のペースを大切にし、家事や余暇活動を自己選択・自己決定しながら希望に沿った支援をしている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B	テーブル拭き・片付け（下膳）・食器洗い・拭きを行っている。食事摂取中の様子や会話から嗜好や摂取量等の確認・把握を行い、利用者の希望のメニューを取り入れ、委員会が中心となり献立を検討している。	B	・法人の管理栄養士が1ケ月単位で栄養のバランスを考慮したメニューを策定し、利用者の要望によりアレンジしている。料理の下ごしらえから盛り付け、後片付け・食器洗いや食器拭き等できるだけ利用者と一緒に行い、職員と利用者が同じく楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	一人ひとりの状態に合わせて食事、水分の摂取量を確認し、把握に努めている。また、口腔・栄養スクリーニングを月1回定期的に実施し、栄養状況のリスク管理をしている。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	歯科医師の指導を受けながら、毎食後、一人ひとりの状態に合った声かけをし、必要に応じて準備声かけ、見守り支援をしている。	B	・毎食後、一人ひとりの状態に合った声かけを実施し、必要に応じて準備声かけ、見守り・介助支援をしている。

帳票C

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター　いわき内郷　　作成者：松本郁美

作成日：2025年　12月　26日　　運営推進会議における評価実施日：2026年　3月　26日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	一人ひとりの排泄パターンを把握して表情・仕草・行動・言葉を観察・確認し、必要に応じて声かけを行い、トイレで排泄が出来るよう支援している。	B	・利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にもタイミングを見計らって羞恥心に配慮した声掛けを行い、トイレでの排泄が続けられるよう支援している。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	午前中の入浴が多いが、本人の希望や体調等を考慮し、その都度支援している。浴槽に入れない方には、シャワーだけではなく足浴を実施し入浴気分を楽しめるよう務めている。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	一人ひとりのペースで生活して頂きながら、体調・状況に応じて休息を促し、空調や光・湯たんぽ等にも配慮して夜間の良眠につながるように支援している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	服薬ファイルに内服説明書を入れることで効能・効果についてその都度確認できるようになっている。服薬変更時は医療機関や薬剤師と連携を図り、申し送り等で情報を共有し症状に変化がないか、体調確認・様子観察をしている。	B	・服薬ファイルに内服説明書を入れ、利用者一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、効能・効果をその都度確認できるように努めている。また、服薬変更時は医療機関や薬剤師と連携を図り申し送り等で情報を共有し症状に変化がないか、体調確認・様子観察を支援している。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	季節に応じた行事を開催している。 家事や掃除・塗り絵やかるた・早口言葉・ことわざ等、一人ひとりが活躍できるよう支援することで気分転換につなげている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	少しでも気分転換が図れるようにゴミ捨てや駐車場でのラジオ体操を行っている。季節によっては、散歩や庭での日光浴・花見をし、戸外に出かけられるように努めている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	B	お小遣いを預かり、本人の希望に応じ、買物や床屋などでお金を使えるように支援している。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	希望に応じて本人が家族と電話で話が出来るようにしたり、ハガキや手紙のやり取りができるよう支援している。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	入居者が作成した季節感のある作品を展示したり、写真を飾ることで居心地良く過ごせるよう工夫している。また、空調・湿度の調整を行い、快適に生活出来る様に支援している。	B	・日々の清掃や温度・湿度・光の管理を適切に行っている。壁には利用者の記念写真や作品・季節を感じさせる飾り付けを利用者と職員が一緒に行い、生活感や季節感を採り入れて利用者が落ち着いて生活が送れるよう配慮している。

帳票C

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター　いわき内郷　　作成者：松本郁美

作成日：2025年　12月　26日　　運営推進会議における評価実施日：2026年　3月　26日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	帰宅願望の訴えが強く徘徊行動が頻回な時など、寄り添う介護を支援し本人の思いを傾聴している。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	短時間の対面面会を行っている。その際にアセスメントも行えるようにして、その人らしいケアが出来る様支援している。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	訪問診療・医療連携に繋がり医療機関や薬局と連携を図り日々の生活を支援している。通院時は、普段の生活の様子や変化・残薬を確認し、レポート化し主治医に報告出来るよう家族に手渡す支援している。	B	・ご本人、ご家族の希望に応じて、かかりつけ医の継続や訪問診療を取り入れている。訪問診療時は、事前に直近の生活及び身体状況を医師に情報伝達し、受診後、受診記録に記録し職員間で情報を共有し、適切な医療が受かられるよう支援している。また、ご家族に対して毎月受診結果についての情報を提供している。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	施設主体ではなく、各利用者様のペースに合わせ朝刊を読んだり、定期宅配（ヨーグルト等）を飲んだり、スタッフと共に家事などを行い生活している。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	B	自室に家族の写真や手紙・お守り・バースデーカードなどを掲示したり、手作業での作品やぬいぐるみを飾っている。	B	・各々の居室には、家具（タンス、ベッド、コタツ、鏡台など）、家電製品、寝具・写真・手紙・お守り・バースデーカード・手作業での作品など馴染みの物やぬいぐるみを持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。なお、居室の清掃については、日々、利用者と一緒に職員が対応している。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	C	希望によって散歩に出かける事が増えたが町内の催事に参加する事ができていない。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	意欲低下が起こらないよう一人ひとりのアセスメントを行い、趣味や余暇活動が継続出来る様、出来るだけわかること・出来ることに目を向け支援している。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	自己選択や自己決定を大切に、自宅で過ごしている延長と捉えて生活が送れるよう支援している。	B	・会話や活動場面で自己選択や自己決定を大切にしている。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	B	庭の草刈りや散歩に出かけ挨拶や交流できるよう支援している。		
49	総合	本人は、このGHにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	元気で穏やかに安心した生活が送れ満足していると利用者からの意見を頂く事が出来ている。	B	・安心した生活が送れるよう支援している。

総評

・スタッフの方々も一人ひとりの支援をしっかり考えているとお話の中で感じました。
・家族とも自由に面会ができており利用者も家族も安心出来ているね。
・ご利用者様の表情が穏やかなのが印象的です。
・実際に施設内を見学したり、利用者や職員と話をしていないので評価が難しい。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

・地域との繋がりが弱い。（行事ごとが減っている。）
・利用者様の家族様との連携が取れてなく、運営推進会議への出席がなく話を直接伺う機会がない。
・利用者様が外に出られる機会を徐々に作られてはどうか（近くの花見など家族の協力を頂いては。）

参加者サイン欄

松本（ホーム長）　・　江尻（ケアマネージャー）　・　鈴木（ユニットリーダー）

鈴木様（前オーナー）　・　鈴木様（区長）　・　遠藤様（前民生委員）・鈴木様（民生委員）

鈴木様（訪問看護ステーションあやめ　いわき好間）